



2013.7

一般社団法人 原子力安全推進協会／ヒューマンファクター検討会

“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”  
No. 7 〈油断〉

タイトル：「これくらいなら大丈夫」は、ホントに大丈夫？

【事例】

天井付近を通る配管に一部塗装の剥がれがあったため塗装作業をすることになりました。慣れた作業、簡単な作業であったため、脚立を用意して作業を開始しました。

この時作業時間や仕上りに注意を払っていましたが、慣れた作業、簡単な作業だったので、油断から両手がふさがった状態でかつ身を乗り出した不安定な状態で作業を行いました。

その結果、脚立から転落し骨折という大きな災害につながりました。

【ヒューマンファクターの視点から】

人間は、簡単な作業、慣れた作業やすぐに終わる作業では、事故やトラブルのリスクを低く見積もってしまう（＝油断する）傾向があります。また、油断は「リスク補償行動」を引き起こします。

リスク補償行動とは、人間は、リスクが低いと見積もられた作業や作業に自信がある場合、リスクが増加する方向に行動を変化させてしまうことで、ここでは、「適切な高さの脚立を準備せずに作業を開始する」「適切な場所に脚立を移動しない」などリスクが増加する方向に行動してしまったことです。

「楽勝楽勝」「余裕余裕」「いつもの事だし大丈夫」といった考えは、油断の表われです。油断をするとリスクの見積もりを甘くし見落す可能性があります。簡単な作業、慣れた作業やすぐに終わる作業では、油断をしやすくリスクの見積もりが甘くなりがちです。

どんな簡単な作業でも危険が潜んでいると認識し、TBM・KY では細部までリスクの洗い出しを心がけるとともに、作業に取り掛かる前に今一度注意事項を確認し、リスクの洗い出しをしましょう。

以上